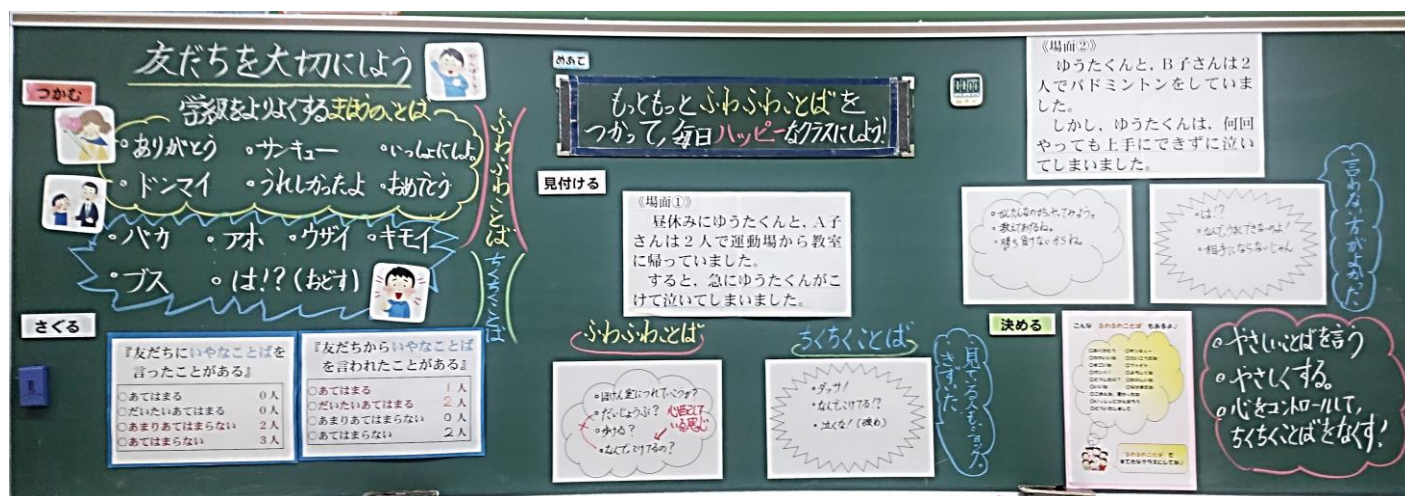


～題材：友だちを大切にしよう～

【ねらい】

学級や学校の生活において自他のよさを見つけ、よりよく生活していくためには思いやりのある言動で互いを尊重し合うことが大切であることに気付くことができるようにする。



【写真①：板書】

【学習過程（略案）】

5月2日（水）3校時

過程	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」を出し合い、学級の中には言われて気持ちのよい言葉と相手を傷つけてしまう言葉があることを知る。	○ 「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」が学級の雰囲気や友だち関係に影響していることに気付くようにする。
さぐる	2 アンケート結果を基に、自他の言葉遣いを振り返る。 ・みんな嫌な言葉を使っていないって答えているけれど、嫌な言葉を言われたことがある人がいるよ。	○ アンケート結果から、自分では気付かないうちに友だちを傷つけてしまっていることに気付くようにする。
めあて もっともっとふわふわことばをつかって、毎日ハッピーなクラスにしよう！		
見つける	3 【場面設定1】を基に、「ふわふわ言葉」や「ちくちく言葉」を考え、ロールプレイをする。 ・泣いている人がいたら、大丈夫って言うよ。 ・「ちくちく言葉」は、言っている人も言われている人も見ている人も嫌な気持ちになるね。 ・「ふわふわ言葉」は、言われてほっとするね。 4 【場面設定2】を基に、「ふわふわ言葉」や「ちくちく言葉」を考え、ロールプレイをする。	○ ロールプレイを通して、「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」を言われたり、言ったりしたときの気持ちについても全体で考えられるようにする。 ○ 「ふわふわ言葉」の大切さを実感できるように、場面を二つ設定する。
決める	5 これから、どのような「ふわふわ言葉」を使っていきたいか意思決定する。 ○ ワークシートに記入する。 ○ 今日の感想を全体で共有する。	○ 多くの「ふわふわ言葉」に触れることができるように、参考資料を提示する。

指導のワンポイント

☆ 「ふわふわ言葉」の大切さに気付かせるための工夫

○ 事前の工夫

- ・アンケートの実施（資料①）

『友だちにいやなことばを言ったことがある』

○あてはまる	0人
○だいたいあてはまる	0人
○あまりあてはまらない	2人
○あてはまらない	3人

『友だちからいやなことばを言われたことがある』

○あてはまる	1人
○だいたいあてはまる	2人
○あまりあてはまらない	0人
○あてはまらない	2人

○ 本時の工夫

【資料①：アンケート結果】

- ・「見つける」過程（写真②）

ロールプレイを取り入れることで、自分事として考えることができると考えた。また、普段自分の考えを上手に発表することができない子どもにとっても有効な指導法だと考えた。

- ・「決める」過程

本時の感想を書いた後に、ワークシートにこれから使ってみたい「ふわふわ言葉」を意思決定させ、一週間実践させる。（資料②）



【写真②：ロールプレイの様子】

友だちを大切にしよう
 <<ふわふわ言葉でよりよい学級に>>
 5月2日

○ 今日の授業の感想を書きましょう。

<<チャレンジタイム>>
 ○ これからどんな“ふわふわことば”を使おうと思いますが、あなたがたのさんの“ふわふわことば”を使ってくれば、よりよい学級になるのはまちがいないだ！
 ＊ いくつ書いてもいいですよ。

[チャレンジシート]

5/7	5/8	5/9	5/10	5/11
-----	-----	-----	------	------

＊ 口の中に、●ー2つ以上つかえた
 △ーつかおうとしたけど、つかえなかった
 を毎日記録しておきましょう。

○ 1週間をふりかえてみて、どうでしたか。

() 年 名前 ()

【資料②：ワークシート】

成果

- どんな言葉が「ふわふわ言葉」や「ちくちく言葉」になるのかを全体で話し合ったことで、自分が普段使っている言葉で友だちを傷つけてしまっていることに気付いた子どももいた。
- ロールプレイを取り入れたことで、「ふわふわ言葉」だけではなく、表情や声のトーンなどのボディランゲージの必要性に子ども自身で気付くことができた。
 例：「泣いている人の顔を覗き込んで、心配している表情で『大丈夫？』と聞くといいね。」

アドバイス

- 「ちくちく言葉」ばかりを発表する子どもも中にはいるが、教師が率先して共感的に受け止めることで、肯定的な雰囲気を作り上げていくことが大切だと思う。